



新年のごあいさつ

組合員、OB諸先輩のみなさん、ご家族のみなさん、新年おめでとうございます。
JR東労組運動への御理解、御協力に感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

私たちJR東労組八王子地本は、職場での奮闘と努力により安全安定輸送と良質なサービスの提供を続けてきました。厳しい経営環境のもとではありますが黒字決算となりました。年末手当の団体交渉において、会社より納得感が持てる回答を得ることができず、会社回答に対して職場からは不満の声が多く出され、また将来に不安を持つ社員が増えています。会社は「過去最高の働き度」と言われる社員の奮闘と、ご家族のご協力をしっかり受け止め、応える姿勢を示すべきであったと思います。

職場での「組織再編」「融合と連携」に対する現状は、要員需給が逼迫し、支社の認識と職場現実があまりにもかけ離れていると感じずにはいられません。そして、『安全』は経営のトッププライオリティと掲げていますが、事故や事象に対して「隠ぺい」する体質が現れています。安全よりも施策が優先されれば、乗客と仲間の命を脅かす事態になりかねません。職場から議論を基に「やるべきことはやり、言うべきことは言う」、安全で安心して働ける職場に向け引き続き奮闘していく所存です。

2024年4月15日に発生した三鷹営業統括センター武蔵小金井駅で社員Aさん(当時社友会所属)が勤務時間中、管理者との面談中に、その管理者からパワハラ・暴行を受ける事象が発生しました。しかし、社員Aが「管理者との面談中に管理者の指示に従わず退室を試みた際、制止した管理者を突き飛ばし障害を負わせたことは社員として著しく不都合な行為であるため」という理由で加害者となり、処分と出向が発令されました。八王子地本は相談を受け、社員AさんはJR東労組に加入して、簡易苦情処理、苦情処理で撤回を求めてたたかってきましたが対立却下で終了しております。申2号を申し入れ、3回の交渉を行ってきておりますが、会社は管理者への暴力によりケガを負わせた事実に基づく処分であり撤回はしないと一貫しております。事象に至る時系列・プロセスについて議論をしていますが、発言した一言一句について合わせる必要はないと終始回答し、事実確認ができていないなら再調査をすべきと主張しましたが、会社は再調査の必要はない、懲戒や個人のプライベートに係る問題は団体交渉になじまないと平行線を辿っています。労使の合意形成を図ろうとしない姿勢は不誠実団体交渉と言わざるを得ません。誠実な回答がされず、交渉で解決する姿勢がないということが明確になった際は、新たなたたかいに打って出ざるを得ません。不当処分・不当転勤の撤回を求め、八王子地本は当該組合員と連帯し、広範に真実を広め、全組合員の総力で更なるたたかいを推し進めましょう。

2025年は、更なる組織再編、ダイヤ改正時にグリーン車サービス開始・南武線ワンマン運転開始、と会社施策が続きます。私たちJR東労組組合員は、労働協約、結成以来会社と締結した膨大な議事録や覚書等で、守られています。ここが他の労働組合や社友会と決定的に違います。これからも常に組合員に寄り添い、組合員の意見から職場の問題・課題を解決していく八王子地本を共につくりましょう。

2025年 1月 1日
東日本旅客鉄道労働組合
八王子地方本部
執行委員長代理 野中広俊